

第7回日仏民間航空機産業に関する ワークショップ

2019年9月25日から27日の3日間、経済産業省（METI）とフランス航空局（DGAC）主催の表記ワークショップが、名古屋商工会議所にて開催された。

2013年に日仏民間航空機産業協力の覚書が交わされ、フランスと日本で毎年交互にワークショップが開催されてきた。昨年度はフランスのツールーズで開かれ、第7回目となる今年は、わが国航空機産業が集まる名古屋での開催となった。25日には第4回AIRBUS-METI-DGACワークショップとレセプション、26日には第1回SAFRAN-DGAC-METIワークショップを展開し、最終日の27日には日仏の機関・企業からのプレゼンテーションに基づき、これからの日仏協力に向けた展望を共有した。

SJACは、日本側航空機産業を代表してここに参加した。これらの概要について報告する。

1. 第4回AIRBUS-METI-DGACワークショップ (9月25日AM)

最初に、経済産業省製造産業局 航空機武器宇宙産業課 畑田課長と、DGAC代表のFour氏が開会のあいさつを述べられ、これまでの日エアバス連携の成果を踏まえた今後の日エアバス協力への期待が示された。

続いて、AIRBUS社を代表してRemy Moreau氏が、これからの日本との関係への期待を述べられた後に、個々の分野での

AIRBUS社の取り組みを専門家が紹介していった。OEMの立場から、これから採用が可能となる技術として、先進複合材や電動化に関する研究の展望が述べられ、日本での取り組みと異なる方向性などが聴衆の注目を集めていた。

同日夕刻より名古屋市内でSJAC主催のレセプションを開き、日仏関係者60余名の参加を得た。



畑田課長の挨拶

2. 第1回SAFRAN-DGAC-METIワークショップ (9月26日)

25日と同様にMETIとDGACのあいさつに始まり、SAFRAN社を代表してGuy Bonaud氏から今回のワークショップへの取り組みが説明された。

続いてSAFRANグループから、技術やサプライチェーンに関するプレゼンテーションがあり、シートや客室備品、航空機エンジン、ナセル、降着システム、ヘリコプター用エンジンについてそれぞれの専門家が現状を



講演会の様子

説明した。さらに、将来技術として、オンデマンド・モビリティ、ハイブリッド推進及び3Dプリンティングに関する講演があり、先行投資にも熱心であることがうかがわれた。

また、協業を希望する日本企業とSAFRAN社の個別面談セッションが設けられ、各社の具体的紹介に対してSAFRAN社側からアドバイスが行われていた。効率やコスト面で自信を持つ企業でも、すでに確立したサプライチェーンに食い込むことは難しい一方で、独自技術については大変前向きな反応が得られており、これから海外受注を目指すにあたって重要なポイントであると感じた。

3. ワーキングセッション ビジネスワークショップ (9月27日)

最終日には、日仏の政府関係機関と企業からそれぞれの活動や今後の目標に関するプレゼンテーションが行われた。

(1) 日仏協同プロジェクト

日本企業2社、フランス企業2社から協同プロジェクトの状況に関する講演が行われた。

(2) Additive Manufacturing (3Dプリンタの活用)

日本企業から、3Dプリンタ技術に対する



DGAC Four氏とWeyant氏

取り組みの現状に関するプレゼンテーションが行われた。

(3) 航空機サプライヤーの支援

フランス航空局DGAC、フランスの航空宇宙工業会であるGIFASのプレゼンテーションに続いて、我が国経済産業省とSJACから「全国航空機クラスター・ネットワーク(NAMAC)」の活動を紹介した。

(4) 航空機サプライヤー／クラスター

クラスター所属企業と、支援団体及び愛知県と岐阜県から活動状況に関するプレゼンテーションが行われた。



NAMACの説明を行う 航空機部品・素材産業室長 新倉氏

4. 所感

筆者は全国航空機クラスター・ネットワーク（NAMAC）の事務局を務めており、今年のパリエアショー以来フランス関係者との交流を持つようになったが、今回のワークショップで仏政府や企業の具体的な活動内容を知り、人的ネットワークを構築することが

できた。国際協業を目指す上で、「継続」の持つ意味を実感できた貴重な機会であった。

また、個別面談を行った日本企業とともに、世界が日本に期待していることがらも具体的に感じ取れたので、今後のクラスター支援活動に活かしていきたい。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 調査部長 平上 雄一〕